

【高知市】 校務DX計画

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改革のために、また、教職員事務の効率化を図るために、校務DXを推進する。

1 教職員と保護者間の連絡におけるクラウド環境の利用

本市では、令和2年度にクラウド環境を利用した学校家庭連絡システムを導入しており、児童生徒の欠席連絡や緊急時の連絡、学校通信等各種お知らせの配信などで活用されている。内容によっては教育委員会からの一斉配信も行い、学校の事務負担軽減にも寄与している。また、保護者との三者面談等の日程調整に活用できる日程調整機能が導入されるなど、より学校のニーズに合わせた機能拡張も随時行われ、活用場面が広がっている。

現状では、各学校における利用頻度に差があることに加え、個人情報許諾の関係で一定数の家庭が同システムを利用していない。今後は、クラウド環境によって「いつでも」「どこでも」必要な情報にアクセスできるなど、学校家庭連絡システムを活用することのメリットについて、校長会等を通して周知しながら更なる活用推進を図る。また、学校家庭連絡システムによって緊急時における安否確認がスムーズにできるなど、学校と家庭の情報共有にも有効活用できることを周知し、高知市立学校の全家庭における利用の実現を目指す。

2 学校内の連絡のデジタル化

令和元年度に県下の公立学校で統一して導入された統合型校務支援システムにより、児童生徒基本情報や出席簿などの個人情報の管理、転出入に伴う児童生徒基本情報の安全性が担保された送信や通知表及び指導要録の作成など、教員の業務が全面的に軽減されている。また、教育委員会と学校との連絡及び学校間の連絡も同システムに統合されているグループウェアを活用するなどデジタル化が浸透し、校務のDXが進んでいる。その一方で、職員会議や職員への周知連絡、行事日程や施設・備品の利用予約など、校内においてそのリソースが十分に活用されているとはいえない現状がある。今後は、同システムの積極的な活用を計るため、活用方法を学校に周知するなど、デジタル化による更なる業務の効率化を図る。

3 FAX・押印等の根本的見直し

FAXの使用については、校務支援システムの文書收受機能やグループウェアのメッセージ機能の活用を周知及び推進することで、その使用頻度を減らす。押印については、本市の学校管理運営規則に押印が必要と記載されている項目もあることから、現時点での全面的な撤廃は難しいが、教育委員会各課の提出書類様式については、押印の原則廃止を進めていく。